

# クロソイ放流技術開発調査 一抄録一

※三戸芳典・中田凱久

## 発表誌名

平成3年度放流技術開発事業報告書、クロソイ班、平成4年3月、P94~113

## 抄録

### 1. 市場調査

#### (1) 平成3年度の漁獲実態

- 1) 脇野沢村漁協と大戸瀬漁協の昭和61年から平成3年までの月別漁法別銘柄別漁獲量と金額を調べた。
- 2) 漁獲盛期は春と冬の2回あり、春は大型魚が多い。
- 3) 漁法別漁獲量では両地先とも底建網を主体とした小型定置網が多く、脇野沢村漁協では年間漁獲量の74.8%を大戸瀬漁協では87.6%を占めている。

#### (2) 平成2年度天然魚の魚体測定

脇野沢村漁協と大戸瀬漁協の成長および全長と体重の関係等について、耳石の測定や検体調査、市場調査結果から調べた。

#### (3) 平成2年度放流魚の再捕結果

脇野沢村漁協と大戸瀬漁協について平成2年4月から12月まで、市場調査を行なったところ、脇野沢村漁協では調査期間168日間に水揚げされた14,948尾のうち114尾が、大戸瀬漁協では50日間に水揚げされた1,306尾のうち14尾が標識魚であった。

### 2. 追跡調査

- (1) 平成3年10月3日脇野沢村牛の首地先水深3mと寄浪部落沖離岸堤水深3~4mに、右腹鰭抜去+尾鰭カットと右腹鰭抜去を標識として31,567尾放流した。また、同年9月22日北金ヶ沢地先3mに、左腹鰭を抜去した稚魚28,000尾を放流した。
- (2) 追跡調査は刺網を使用した。
- (3) 脇野沢村地先では離岸堤に前年度放流魚を含む1才魚の生息が確認されたが、標識魚の再捕は2尾だけであった。また、アイナメの食害とクロソイの共食いが見られた。
- (4) 北金ヶ沢地先では標識魚の再捕はなかった。

◇ ◇ ◇  
※ 現水産課